

知識の組織化と図書館

もり・きよし先生喜壽記念論文集

編集・発行

もり・きよし先生喜壽記念会

1983

**The Organization of Knowledge
and
The Library**

Essays in Honour
of
the Seventy-Seventh Anniversary
of
Professor Kiyoshi Mori's Birthday

Edited and Published by
the Commemorative Committee of
the 77th Anniversary of Prof. Kiyoshi Mori's Birthday

1983

知識の組織化と図書館

もり・きよし先生喜壽記念論文集

1983年 9 月14日発行

定価 12,000円

編集・発行／もり・きよし先生喜壽記念会

〒154 東京都世田谷区世田谷3-12-19

青葉学園短期大学図書館学研究室内

制 作／日外アソシエーツ株式会社

発 売 元／株式会社紀伊國屋書店

〒160-91 東京都新宿区新宿3-17-7

電話 (03) 354-0131 (代)

印刷・製本／株式会社理想社印刷所

不許複製・禁無断転載

〈落丁・乱丁本はお取り替えます〉

ISBN 4-8169-0270-8

Printed in Japan, 1983

献 辞

喜壽を お迎えになりました
もり・きよし先生に
心から お慶び申し上げます とともに
すえ長く お健やかに 今後も
変らぬご指導を 賜わりますように
祈念しつつ 謹しんで
記念論文集『知識の組織化と図書館』を
献進いたします

もり・きよし先生喜壽記念会
発起人一同

序　　言

『日本十進分類法』の原編者として、もり・きよし先生は、図書館人なら知らない者はない偉大な存在です。先生は最近もお障りもなく、至ってお健やかに活躍を続けておられ、この夏8月25日には喜壽をお迎えになります。そこで、長年ご指導を賜った後輩たちが相談し、先生の燦然と輝やくご業績を讃え、あわせてご長壽をお祝い申し上げる「もり・きよし先生喜壽記念会」を發起し、この記念論文集を編纂して、先生に献呈することにいたしました。先生の知友、門下の方がたにご寄稿をお願いしましたところ、多数の方が進んで筆をとられ、玉稿を送って下さいまして、所期の目的に即した論文集の刊行を全うすることができましたのは、関係者として感激しております。

この論文集に題して『知識の組織化と図書館』といたしましたのは、先生の半世紀を超える図書館界へのご尽瘁もさることながら、先生の主要なご業績が、冒頭に申し上げた『日本十進分類法』の創案・改訂そして資料分類法のご研究にあったからで、資料分類の基盤をなす人類の知識の組織化こそ、先生のご業績を顕わすものと考えたからであります。また、寄せられた論稿中、半数近い諸編がこのテーマにかかわるものであり、このほかの図書館に関する諸技術、管理運営についての諸論文とともに、この論文集が書名に適う内容となっていることから認めて頂けるものと存じます。

さて、もり・きよし先生は1906年（明治39）8月25日、大阪市にお生れになりました。本籍は岡山県ですが、成人するまでずっと浪速の水に育まれたのであります。大阪市立実業学校在学中、15歳のとき、ローマ

字運動に参加，そこで間宮不二雄氏に出会われたのが先生の一生を決定することになりました。ローマ字運動の指導を受けるうち，間宮氏の人柄にひかれ，先生は実業学校卒業とともに間宮氏の経営する，当時わが国唯一の図書館用品専門店間宮商店に就職されました。ここで先生の図書館への眼が開かれ，1927年（昭和2）には，間宮商店所蔵図書館学文献の整理をとおして、『日本十進分類法』の構想をまとめられました。ちょうどそのとき，間宮氏を中核とする「青年図書館員聯盟」が結成され，その機関誌『書研究』誌上に，先生は『日本十進分類法案』を発表されました。先生，ときに21歳，これが『日本十進分類法』の出発点であります。翌々年，1929年『日本十進分類法』は増補改訂されて単行書として間宮商店から刊行されました。

1930年，先生は間宮商店を辞し，鳥取県立図書館に入られました。いよいよ図書館員になられたのであります。1934年，『日本十進分類法』に分類変更する神戸市立図書館に招かれて，新たに増補改訂されたその第3版を先生自ら使用するという経験をされました。

第二次世界大戦中は上海日本近代科学図書館司書部主任，華中鉄道図書館主事として招かれ，外地にあって苦勞を重ねてられました。

1946年4月帰国された先生は，当初千葉県市川市立図書館設立準備に当られ，間もなく国立図書館（現・国立国会図書館支部上野図書館）へ勤務され，明治以来の資料整理方式を改め，『日本十進分類法』による主題分類排架方式導入に邁進されました。国立国会図書館整理部に転じてからも書誌調整業務の指導的地位に立たれ，多くの業績を残されました。『国立国会図書館所蔵明治期刊行図書目録』の基礎を確立されたことは，その最も大きな業績のひとつにかぞえられましょう。他方，日本図書館協会の常務理事・監事等の役員として館界の発展に尽されましたが，同協会分類委員会主査として戦後一貫して『日本十進分類法』の改

訂にたずさわってこられた功績は一段と特筆されなければならないものと信じます。『日本十進分類法』の普及率は公共図書館・学校図書館の95%以上、大学図書館の80%以上におよび、事実において、『日本十進分類法』こそ模範的標準分類法と申せましょう。

先生は、若い頃から全国各地の講習会等でご専門の資料分類法・目録法を講ずる機会を持たれましたが、1972年国立国会図書館を停年退官されると、請われて法政大学、東洋大学等で教壇に臨まれ、現在は青葉学園短期大学教授を続けておられます。先生の実践に練えぬかれた明快なご講義は、後進を啓発せずにおかない情熱にあふれているものと承っております。幾冊もの図書整理法・分類法の教科書、参考書を著わされましたが、簡潔な中に要を得て、解り易い記述は定評のあるところです。近年は私立短期大学図書館協会会長として、短期大学図書館の育成にも尽力されておられます。

このように、先生は図書館界に惜しみなくエネルギーを注がれ、尽力されてこられました。これから後もご自愛下さり、ますます蘊蓄を傾けてご指導賜わりますよう、心から祈念する次第でございます。

末筆ながら、本書の刊行に際し、ご協力下さった方々に、厚く御礼申し上げます。

1983年8月

もり・きよし先生喜寿記念会

発起人代表

中 村 初 雄

(慶応義塾大学名誉教授)

目 次

NDC の諸問題	鮎澤 修.....	1
大学図書館における財政問題		
——短期大学図書館の図書購入費運用の事例を中心に	醍醐 光子.....	17
森先生の流れを守る人々に.....	遠藤 英三.....	39
NDC 初版について——日本十進分類法初期諸版論序説	藤田 忠雄.....	53
ある分類法の系譜		
——朝鮮総督府図書館から韓国国立中央図書館へ	藤田 豊.....	59
短大図書館に於ける目録コードの研究		
——日本目録規則 新版 予備版を中心として	林 収正.....	69
新聞切抜きについての文献案内.....	平川 千宏.....	81
加除式刊行物の位置付け——単行書と逐次刊行物との間	石山 洋.....	97
“ブラウジング” から “スキミング” へ——国立国会図書館		
における排架と利用の今日的課題	巖 礼吉／丸山 泰通.....	107
蔵書構成私論.....	岩崎 巖.....	123
エドワーズ分類表の一考察.....	和泉田正宏.....	141
「日本全国書誌」のデータにみる NDC 記号順レコード数.....	金中 利和.....	159
森さんと目録法の思い出.....	河嶋 慎一.....	173
公共図書館児童室における図書分類に関する一考察.....	小林 矩子.....	179
専門図書館と分類法.....	国分 信.....	193
標準分類表とその改訂について.....	丸山昭二郎.....	217
サミュエル・S・グリーンの人的援助理論の研究	増田 稔.....	231
日本著者記号(N. A. M.) 論.....	宮原 賢吾.....	241
国立国会図書館所蔵蘆原コレクションの分類について.....	宮坂 逸郎.....	259
断想——主題アプローチ思案あれこれ	中村 初雄.....	275
外国図書の直接買入に就いて.....	中島 正之.....	293

分類, 分類表, 分類規程	……埜上 衛	307
現代目録法における版の扱いに関する研究	……志保田 務	323
オンライン目録における主題アクセス——BOOKSの場合	……椎葉 徹子	343
プール・インデックスの経緯とその性格		
——初期雑誌記事索引についての研究ノート	……志村 尚夫	361
書誌記録の国際標準と目録規則		
——ISBD(M)とAACR2, NCR 新版	……高鷲 忠美	375
新しい図書館界をめざす為に		
——図書館学と情報科学のマッチングについて	……田中 諭	391
雑誌記事索引としての『国文学年鑑』	……田澤 恭二	397
記入の排列をどうとらえるか	……遠山 潤	413
専門図書館における資料組織法試論——全国図書館ネットワークを前提とした効果的な資料組織構築法	……内山 和	429
Japania Decimala Klasifiko, origine kompilita de MORI Kiyoshi, la oka eldono novkorektita, reviziita de la Klasifika Komitato de la Jurpersona korporacio, Japania Biblioteka Asocio, ekstrakte tradukita en Esperanton de UEDA Tomohiko		
(日本十進分類法エスペラント抄訳)	……上田 友彦	443
図書館とその資料について		
——アメリカにおける学校図書館のマルチメディア化	……渡辺 信一	455
シェラの知識分類法について——社会認識論の解釈と展開	……彌吉 光長	469
もり・きよし 年譜 (自編)		481
もり・きよし 著作・雑記目録 (自編)		492

CONTENTS

Several Problems on Nippon Decimal Classification by Osamu AYUSAWA	1
Financial Administration of College and University Library—A Case Study on Book Budget by Mitsuko DAIGO	17
To the People Who Keep Academic Tradition of Prof. Mori by Eizō ENDŌ	39
On the First Edition of Nippon Decimal Classification by Tadao FUJITA	53
On the Decimal Classifications Used at Hangkok National Central Library from Chosen Government Library by Yutaka FUJITA	59
An Applied Code of Cataloging Rules in Junior College by Shûsei HAYASHI	69
A Bibliographical Guide on Newspaper Clippings by Chihiro HIRAKAWA	81
Interpaginated Loose-Leaf Publications: Their Place between Monographs and Serials by Hiroshi ISHIYAMA	97
From "Browsing" to "Skimming"—Today's Problems on Shelving and Use Searching of Materials in NDL by Reikichi IWAO and Yasumichi MARUYAMA	107
My Essay of the Library Collection Development by Iwao IWASAKI	123
A Study of EDWARDS's Scheme of Classification by Masahiro IZUMIDA	141

Record Distribution of Japan National Bibliography Calculated with Nippon Decimal Classification by Toshikazu KANAKA.....	159
Classificationist Mori is a Great Professional of Cataloging, Also : My Remembrance by Shin'ichi KAWASHIMA.....	173
Classification of Juvenile books and Public Library Services for Children by Noriko KOBAYASHI.....	179
Special Libraries and Classification of Their Materials by Makoto KOKUBU	193
A Proposal for Standard Library Classification Scheme and its Revision in Japan by Shôjirô MARUYAMA	217
On Samuel S. Green's Theory of Personal Assistance by Minoru MASUDA	231
The Critique of "Nippon Author Mark" by Kengo MIYAHARA	241
On the Classification of the Ashihara Collection in the National Diet Library by Itsurô MIYASAKA.....	259
Fragmentary Notes on Subject Approach of Library Materials by Hatsuo NAKAMURA.....	275
On Purchase of Foreign Books Without Importer Agent by Masayuki NAKASHIMA	293
Classification, Classification Schedule, and Classification Code by Mamoru NOGAMI	307
A Study of Edition in Modern Cataloging by Tsutomu SHIHOTA	323

A Project for Improving Subject Access in an Online Catalog —BOOKS data base	
by Motoko SHIIBA	343
Pool's Index ; Its History and Nature	
by Hisao SHIMURA	361
International Standards of Bibliographic Records and Cataloging Rules : A Comparative Study among ISBD(M), AACR2 and NCR Preliminary New Edition.	
by Tadayoshi TAKAWASHI	375
To Aim at the New World of Library —As to the Matching both Library Science and Information Science	
by Satoshi TANAKA	391
"Bibliography of Research in Japanese Literature" as Periodicals Index	
by Kyôji TAZAWA	397
Theoretical Research on Filing Rules	
by Jun TÔYAMA	413
Some Considerations on Organizing Methods of Information Materials Used by Special Libraries	
by Kazu UCHIYAMA	429
Nippon Decimal Classification Translated Selectively into Esperanto	
by Tomohiko UEDA	443
The Library and Its Materials or The Media Center and Its Multimedia Collection	
by Shin'ichi WATANABE	455
A Study on J. H. Shera's Classification of Knowledge —Interpretation and Expantion of Social Epistemology	
by Mitsunaga YAYOSHI	469
Prof. Kiyoshi Mori's Personal History	481
Prof. Kiyoshi Mori's Writings	492

N D C の 諸 問 題

鮎 澤 修

序 説

1. NDCの本表（分類細目表）について
2. NDCの本表各論
3. NDCの助記表

序 説

NDCの初版が1929年8月25日に間宮商店より発行されてから、新訂8版が1978年5月5日にNDC最新版として刊行され、更に5年の年月がたっている。初版刊行以来実に54年、NDCの草案が『図研究』誌上に、もり・きよしによって発表された1928年から数えると55年になる。その間NDCが標準分類法としての地位を確立する迄には、昭和初期の所謂標準分類法論争を経過し、戦後文部省が『学校図書館の手引』に取り入れ、一方で国立国会図書館がダウンス勧告に基づき、和漢書の分類にNDC改訂版を採用するに至るまでの道程があった。現在では、標準分類法として図書館界に圧倒的な位置を誇っているが、一方でNDC自体の内在せる欠点により、多様な動向が出て来ている。この動向を大きく分けるとそのひとつは、十進分類法の有する欠点を是正出来ない限界があると論じ、十進体系をくずして非十進体系に組み替えたものがある。例えば秋岡梧郎の「五十音式展開分類表による標準分類表試案」（間宮不二雄先生喜寿記念図書館学論文集 9—36頁）や、その影響の下に森博によって作成された『大田区立図書館図書分類表』等がある。聞くところによると、NDC原編者のもり・きよしが、かなり前にNDCの綱目表に当たる第二次区分表を類目表として第一次区分し、その下を細分した非十進体系の私案を持っていると

Osamu AYUSAWA：日本図書館協会

のことである。勿論これ等は、NDC以外に標準分類法として知られている非十進体系の展開分類法、件名分類法、書誌分類法、コロン分類法等とは異なり、標準分類法としてのNDC批判より出発した私案である（尤も、もり・きよしの私案は記号法としてはハリスの分類法に似ているが）。もうひとつの動向は、書架分類法としてのNDCの部分的改変や、かつて日本図書館協会分類委員会でも検討された如く、書架分類法としてのNDCはもっと簡素化し、各类目表毎に或いは綱目表毎に詳細な書誌分類表を作成するという考え方である。NDCの維持管理を目的としている日本図書館協会分類委員会としては、次の改訂に際してもNDCを廃止して非十進にすることは考えられず、やはり十進法の範囲内での改訂になると思われる。しかしNDC新訂8版ですでにその傾向が見られるように、情報科学、公害といった目的機能別の知識システムの再編成が科学技術の顕著な進歩に伴って一段と活発に行なわれている現状を顧みると、従来の学問分類に準拠した体系では、十進・非十進に関係無く、学際的思考に基づく目的機能別の知識システム体系を考案することが、分類表作成者である分類委員会に課せられた急務ではなかろうかと思う。勿論筆者の貧弱な能力では到底不可能な作業であるが、将来への問題点として指摘しておきたい。以下、NDC新訂8版を中心に本表及び助記表、相関索引と分類規程の問題点について言及したい。

1. NDCの本表（分類細目表）について

(1) 細目表の精粗

NDC新訂8版では新訂7版と比較し、約2,000項目減少して約8,600項目になっている。これはNDCが今後書架分類法に徹する為、あまり細分せず書誌分類表を主題毎に作成し、補足するとの意向が一方にあるが、NDC新訂7版であまりに詳しすぎ、専門図書館でさえ該当番号の箇所に一冊も配架されていないし、今後も可能性がない様な冗長な分類番号は極力削除して必要な項目のみ列挙するか、全く取ってしまうかに決めている。細目表の精粗をどの程度にすべきかは今迄も議論のあった所であるが、少くとも論文レベルのもの迄考

慮する必要はなく、図書レベルでの細目展開にとどめておくべきであろう。テクニカル・タームとして論文レベルの専門用語が必要な場合は、本表に列挙せず相關索引に出して参照分類番号を指示しておけば充分である。

(2) 目的機能別システムへの傾向

序説の最後に新訂 8 版の情報科学と公害の例で若干の説明をしたが、よく考えてみると上記二つの例はたまたま一つのテクニカル・タームの下に関連事項を集中させただけであり、その前提となる要素は新訂 8 版以前にもすでに現われている。例えば新訂 7 版の 781.9 遊戯一般の如く「一般」という表現で関連事項を集中させる方法である。この他にも新訂 8 版では 367.7 老人問題〈一般〉や、367.6 児童・青少年問題〈一般〉がある。もし 367.7 老人問題の下に→：印注記の「をも見よ参照」の関連分類番号の諸項目をすべて 367.7 の下に集中させ展開すれば、情報科学や公害と同様になる。以上の如く〈一般〉を数多く増加させていけば、NDC の十進法体系の中で目的機能別システムのステップをつけることができる。そして将来的には、目的機能別テクニカル・タームを一定の法則の下に再編成すれば—それが結果として十進法の下で可能か否かは別問題として—知識システムの再編成が可能になる⁽¹⁾。

(3) 分類注記について

NDC の分類注記については以前から加藤宗厚⁽²⁾初め他の権威者からも利用者の為にもっと詳細な注記を付し、且つ分類規程を整備すべしとの御意見をいただいて居り、筆者も全く同感であり具体的には以下各項目毎順に問題点を指摘してみたいが、ここでは先ず第一に分類注記と分類規程の関係というか、何処迄を分類注記に挙げ、何処からを分類規程にすべきかという問題がある。勿論分類注記は NDC 本表（分類細目表、以下本表と表現）に於ける分類規程であり、分類注記のみが分類表の総理解に役立つのではなく、共通問題や部分的問題でも本表の該当分類番号の下には必ずしも適切でない事項がある点は少々理解しているつもりであるが、『国立国会図書館和漢書分類コード』を初めとして各個別に図書館で作成された分類規程や資料分類法の概説書等の中で扱われている分類規程を見ても、NDC 本表の分類注記と相当部分重複してい

るし、実際問題として新訂6版の為に作成された『国立国会図書館和漢書分類コード』の大部分が新訂7版の分類注記に採用されている点から考えると、分類注記の補完的役割を果たしている分類規程は次の版の本表の分類注記に採用される可能性が充分あるばかりではなく、NDCの維持管理を目的とする日本図書館協会分類委員会で作成される分類規程は次の版の本表への採用を前提としていると言っても過言ではない（たとえ結果としての採用であっても）。更に資料分類法概論等の中で扱われていて本表の分類注記に採用されていない分類規程でも、本表に採用しても差し支えないものがかかなりある。以上の如く考えてみると、本表を補完する為の分類規程はNDC序説にある「分類規準」（所謂一般分類規程）を除けば極めて僅かになってしまう。第二はやはり加藤宗厚が指摘している⁽³⁾。新旧番号の相互指示であるが、DDCに於て Job classification[formerly 350.122]の如く前の版の分類番号との相互指示が分類注記の形でDDC本表に表示されている。NDCは要目表に於てのみ旧版との相違が指示されているに過ぎない。しかし実際の分類作業中、新訂8版で分類していく上で新訂7版の分類番号が必要なのは、今迄新訂7版で分類作業をしていて新しく新訂8版を部分的又は全面的に切り替えていく再分類作業の際か、印刷カード作成機関で新旧双方の分類番号を表示する場合位ではなかろうか。再分類作業について今ここで詳しく論ずるつもりはない。新しい版は確かに旧版より改善されているが、だからと言って新版が出るたび再分類していたのでは、その為の膨大な作業量を考えると全く無駄で、配架分類としては図書の配架位置さえ明確にすれば充分であり、体系が少々変わったからと言ってわざわざ手間をかけて再分類する必要はないとの立場で説明して来たが、やはり目移りすると見え、最近では若干の大図書館でも新訂8版に全面切り替える所が出て来ているが理解に苦しむ。以上の如く新旧分類番号の相互指示が必要なのは限定されたケースであり、その為にあって本表に相互指示する必要はないように思うが如何であろうか。実際にこれを行なうとDDC以上に本表の四ケタ以上の細目についての移動が多いので、相当繁雑になってしまうのである。それよりも利用者の為には本表適用上の説明としての分類注記を増加した方がより以上に

有益である。もし相互指示が必要であれば別にその為の対照表が作成されている⁽⁴⁾ので、それを参照されれば間に合うと思う。

2. NDC本表各論

以下に述べるのは筆者自身今迄に総記から文学に至る迄数多くの問題を発見して居るが、あまり細かい問題は除外し、比較的重要と思われる点に絞って筆者の意見を述べてみたい。

(1) 007.7 情報システム：UNISIST, NATIS

この分類注記に*印で（新訂8版の分類注記は*印の下に説明してある。新訂7版は〔 〕内に説明）「MEDLARS, MARC など特定のデータ処理システムは関連主題の下に収める」とあるが、少くとも具体的に例示したものについてはやはり分類番号も示して欲しい。後者のMARC（機械可読目録）は014.37と判断できるが、MEDLARS（医学情報システム）は490の何処に分類したら良いか判断に迷う。NDCの分類注記で「特定主題の○○はその主題の下に収める」という表現がよくあるが、上記の如く具体例を出しても分類番号迄示していないものや、単に字句の表現にとどまって具体例のないもの（069.8の如く）、そして361の如く具体例と分類番号双方示してあるものもある。やはり一寸迷う様な場合は例示して分類番号を付しておいた方が親切だと思う。

(2) 100 哲学の哲学者について

120/139には所謂哲学者として評価の定まった人名が列挙されて居り、更に「～など」という表現ですべてではなく例示であることを示しているが、近代哲学で133/138迄の人名の後に例示を表現する「～など」が表示してない。特に近現代の哲学者は評価の定まりつつある者が多いので（例えばメルロ・ポンティの如く新訂8版で追加された哲学者がある）、「～など」の表現で例示である事を強調する必要がある。出来れば近代の哲学者は各国毎に追加表を作成すべきである。又125.9の中国の現代哲学者は全く名前が例示されていないが、これなども早急に例示すべきではないだろうか。

(3) 110 哲学各論の分類注記に関連して